



揺籃(ようらん)とは「ゆりかご」のことです。本校の校歌の一節に「霊の揺籃 わが母校」とあります。中条校は、生徒の皆さんにとって精神(魂)をすこやかに育む「ゆりかご」でありたいと思っています。

■中条校でのカブトムシ飼育、1年間の軌跡！

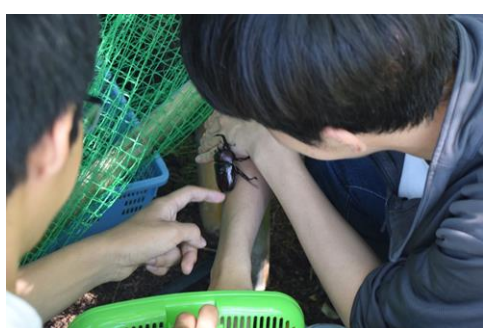
毎年“海の日”に道の駅中条で開催される夏の風物詩「中条でカブトムシをとろう！」中条校生も毎年参加して、子どもたちと一緒にカブトムシをおっかけています。昨年、「どうせならカブトムシを育てるところからやってみよう」というある生徒の一言からこのプロジェクトはスタートしました？中条地区林業研究グループの酒井さんを中心にご指導いただきながら、1年間大事にカブトムシを育ててきました。果たしてその結果は……。今回は中条校のそんな1年間の悪戦苦闘ぶりを紹介します。



上の2枚の写真は、昨年11月に幼虫の住まいの引っ越しをしたときのものです。このときには、なんと964匹もの幼虫が確認されました。



今年5月には丸々と太った幼虫が確認され、鳥や獣、そして暑さから守るため、住まいの上に網がかけられ、巨大な要塞が完成しました。



6月になり、最高気温が25度をこえると、カブトムシの羽化が始まりました。朝、住まいを見に行くと一番外側のネットにまでカブトムシが何匹もついていたので、このころから多くのカブトムシは逃走に成功し、裏山での自由を手に入れたみたいです。確実に採集するため、1年生にカブトムシ隊を結成し、夜8時に再登校して「夜のカブトムシ捕獲作戦」を敢行！多い日には30匹ものカブトムシを採集することができました。生徒玄関には「本日のカブトムシ情報」が掲示され、カブトムシの動きを全校に知らせしました。



7月16日、「中条でカブトムシをとろう！」が道の駅中条で開催され、300組以上の親子がワンサカと中条まで来てくれました。中条校からも11名の生徒が参加、あっちに走り、こっちにとびつき、カブトムシの採集に奔走しました。精魂込めて育てたカブトムシが大勢の子どもたちに笑顔をプレゼントしてくれ、「この日のための1年！」という実感がわきました。

7月16日には、お隣の「ろくちゃん森」でも、SBラジオの主催で「ろくちゃんの森の学校」が開校されました。こちらにも中条校生がお手伝いで参加、子どもたちがのこぎりで木を切るところを助けたり、一緒に木工細工をつくったり、それから須藤紀信さんのスペシャルライブで歌ったりと、何かと忙しい一日でした。



さてさて、1年間のカブトムシ飼育ですが、最終的には300匹ほどの捕獲に留まったので、300匹は逃走に成功し、300匹は羽化に失敗したものと推測されます。右の写真は何かわかりますか？そうなんです！来年用のカブトムシの新しい住まいが既に準備されています。今年の反省を踏まえ、来年はもう少し捕獲率を高め、保育園や小学校にも届けたいと思います。中学生の皆さん、中条と一緒にカブトムシを育てましょう！！

